



「3つの合言葉」元気・学び・会話

町の子供は町で育てる

滑川町教育委員会だより

「学んでよかった町へ -チーム滑川での教育-

メガネ(見方・考え方)を手に入れよう

「勉強なんて何の役にも立たない」などと思っている子供たちも多いのではないのでしょうか。私も、そんなことを考えたことがあります。今回は、学ぶことの意味を考えてみたいと思います。

寺田寅彦(1878-1935)という人を知っていますか。彼の遺した「天災は忘れた頃にやってくる」という言葉はあまりにも有名ですが、明治大正昭和時代を通じて活躍した一流の物理学者でした。同時に大変な名文家であり、多くの随筆を遺しています。その中の一つに「藤の実」という作品があります。藤の実は成熟すると殻が割れてパチンと弾け飛ぶそうで、その様を表現しています。この文章を読んでもみると、寺田のように物理学の知識・言葉を持っている人は、藤の実が弾けて飛ぶという現象の見え方が私のような者とは全く違うということがよく分かります。一部を引用します。

それにしても、これほど猛烈な勢いで豆を飛ばせるというのは驚くべきことである。書斎の軒の藤棚から居室の障子までは最短距離にして五間はある。それで、地上三メートルの高さから水平に発射されたとして十メートルの距離において地上一メートルの点で障子に衝突したとすれば、空気の抵抗を除外しても、少なくとも毎秒十メートル以上の初速をもって発射されたとしなければ勘定が合わない。あの一見枯死しているような豆の鞘の中に、それほど大きな原動力が潜んでいようとほちょっと予想しないことであった。

(教科書名短編一科学随想集、中央公論新社、2021、43p)

寺田の目には、藤の実が描く放物線がはっきりと見えていたのでしょうか。つまり、私には見えない世界が寺田には見えるということになります。まるで新しいメガネを掛けたときのように「これまでに見えなかったものが見えるようになる」学ぶことの意味はこんなところにあるのかも知れません。

また、歴史家の磯田道史さんは、歴史を学ぶことの意味を安全靴に例えています。

人々の歩みを理解すると今も将来も役立つ。歴史を知り、将来に備えるために学ぶ。私は歴史を靴に例えます。日常生活はガラスだらけの浜辺みたいではだして歩くと危険。世の中を安全に歩くには靴が必要です。「歴史は繰り返さないが韻を踏む」とも話します。全く同じでないが、ラップで似た音を繰り返すように似た出来事は起きる。例えば震災。地震や津波の歴史を知れば次に備えられる。私の母は幼少期、徳島県で津波に襲われました。大勢亡くなる中「大地震では山へ」の言い伝えに従って逃げ、助かった。歴史には「因果関係」、原因と結果があり、そうなった理由を考えると、似たことが起きた時に役立つ。

(令和6年9月17日毎日新聞夕刊、14歳の君へ)

この発言も、「歴史を学ぶことで未知の世界が見えるようになる」という意味にもとれるような気がします。現に歴史学の泰斗、エマニュエル・トッド(1951-)は、ソ連の崩壊、英国のEU離脱、トランプ政権の誕生などを予言しています。「見えなかったものが見えるようになる」「これまでには持ち得なかった世界の見方・考え方を手に入れる」って素敵なことだとは思いませんか。

物事の見方・考え方は、学問によってそれぞれ固有のものがあります。寺田は、弾け飛ぶ藤の実を物理学の見方・考え方で考察しましたが、仮に同じ現象を俳人の正岡子規(1867-1902)が見たらどんな表現をしたのでしょうか。「俳句は写生」と言った子規ですから藤の実の飛翔をありのままに写し取った素敵な俳句を詠んだのではないのでしょうか。いろいろなメガネ(見方・考え方)を手に入れることで、世界が広がる楽しさを味わって欲しいと思います。

〇11月のおはなし会のご案内

11月は下記の日程でおはなし会を開催します。

お子さんが本と出会う素敵な時間になるよう楽しいおはなし会を企画しています。大勢の方のご参加をお待ちしています。予約の必要はありません。当日、図書館にお越しください。

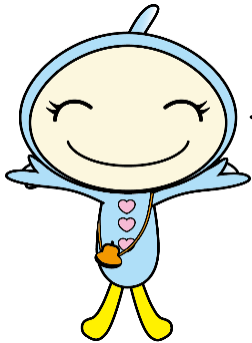
日時：11月13日(水) 11時00分～ 0歳～2歳向け
11月16日(土) 10時30分～ 3歳以上向け



〇ビジネス支援情報コーナーを作りました

滑川図書館では、就業に役立つ情報をまとめた「ビジネス支援情報コーナー」を1階入り口の正面に設置しました。このコーナーには、講習のご案内や就職相談のご案内などを取りそろえてあります。ぜひ一度足を止めてみてください。

なお、職業に関する書籍は一般書籍の「労働関係」366番にあります。こちらもご覧ください。



♪図書館のおすすめ本コーナー♪

図書館では「今月のおすすめ本」と「館長のおすすめ本」の二種類のおすすめ本のコーナーがあります。11月は今月のおすすめ本として、「芸術」、館長のおすすめ本として、「睡眠」です。おすすめ本コーナーに足を止めて、手に取る方が多くてとてもうれしく思っています。これからも毎月、おすすめ本を紹介させていただきますので、よろしく願いいたします。

「滑川町の城館跡」 part5

三門館跡 中世(詳細時期不明)

三門館跡は国指定重要文化財の阿弥陀如来坐像を有する泉福寺より東に約200mの位置にあります。この館跡は資料も乏しく、詳細は不明ですが、源頼朝の父である義朝などに仕えた比企遠宗の館跡とする言い伝えがあります。

また、吾妻鏡の建久4年2月10日の条に頼朝が伊豆に流された際に、困窮した部下を毛呂太郎季綱が助けたことから、その恩に報いるためこの館の周辺とされる泉・勝田の地を与えたとする記述もあります。

館跡の北西と南東には丘陵があり、丘陵上の三方を空堀と土塁で囲っていたとされています。その中の周囲約200mの方形範囲が館の敷地であったとされ、現在は空堀と土塁の一部が残っています。空堀は断面がV字の葉研状で上幅7m、深さ約1.5mあり、堀の両側に約50cm～1m程の盛土された土塁があります。北西側の空堀は丘陵上を南北に180m延び、東へ折れ50m程で丘陵裾まで達しています。



三門館跡南側からの遠景



三門館跡西側の土塁と空堀